

資料4 アンケート結果

4－1 日本青年海外派遣

4－2 NPO マネジメントフォーラム

4－3 地方セミナー

【プログラムの構成】

月 日	内 容	資料
10月9日～18日	日本青年海外派遣	○
2月14日～28日	外国青年日本招へい	
2月16日～19日	NPO マネジメントフォーラム	○
2月21日～26日	地方セミナー	○

**平成28年度地域課題対応人材育成事業「地域コアリーダープログラム」
派遣プログラムアンケート結果**

調査概要

<回収率> 団員24人中24人(100%)

<調査時期> 帰国後研修時(平成28年10月20日)

高齢者関連活動(EP): 英国団 8名

障害者関連活動(PD): フィンランド団 8名

青少年関連活動(Y): ドイツ団 8名

* 表内の最高値は、5(明記のある場合を除く)

1. 事前研修の内容について

	5 大変良かった	4 良かった	3 まあまあ	2 あまり良くなかった	1 悪かった	平均
英国(高齢者) UK (EP)	0	7	1	0	0	3.88
フィンランド(障害者) Finland (PD)	2	6	0	0	0	4.25
ドイツ(青少年) Germany (Y)	1	5	0	2	0	3.63

【良かった点】

・他分野の団員と共に学べる機会があり刺激をうけた。(PD)

【悪かった点】

・スケジュールが過密でもう少しゆるやかであれば良かったかもしれない。(EP)

【不足していた点】

・三分野合同の時間が、もう少し合った方が良かったと思います。他の団のディスカッションの内容(様子など)をもう少し知りたかった。(Y)

2. 出発前研修の内容について

	5 大変良かった	4 良かった	3 まあまあ	2 あまり良くなかった	1 悪かった	平均
英国(高齢者) UK (EP)	0	5	2	1	0	3.50
フィンランド(障害者) Finland (PD)	1	7	0	0	0	4.13
ドイツ(青少年) Germany (Y)	0	7	0	1	0	3.75

【良かった点】

・事前研修後、鹿児島県での自主研修を企画・実施し日本の制度や現状を学び共有できたことは、仕事がある中でモチベーションを維持することが出来、有意義だった。自主研修後は、フィンランドの訪問先について学び、出発前研修で共有ができた。(PD)

【悪かった点】

・プレゼン資料作成にかなりの時間と労力を要しました。報告会では団長のみが団内で共有している情報や方向性を報告してもらって、団の内外の融和を図るような出発前研修もよいかもしれません。もっとも大切なのは、渡航前に団や自分自身へのポジティブさや訪問への期待感が養われることであると考えています。(Y)

3. 訪問国活動について

(1) プログラムの内容全般について

	5 大変良かった	4 良かった	3 まあまあ	2 あまり良くなかった	1 悪かった	平均
英国(高齢者) UK (EP)	1	5	2	0	0	3.88
フィンランド(障害者) Finland (PD)	0	8	0	0	0	4.00
ドイツ(青少年) Germany (Y)	6	1	1	0	0	4.63

(EP)

・おおむね良かったが、訪問先が中間支援団体に偏っていたように思う。ケアホームやNHS(国民保険サービス)の訪問も有ると幅広く学ぶことができた。

(PD)

・特に、省庁は、背景の基盤となる所のため、もう少し時間が必要だった。医療機関も入れてもらえるとうり良かった。

・もう少しローカルな現場についても見たかった。どこの訪問先も国の最新やモデルケースが多く、その他大勢の人々の暮らしが少し見えにくかった。現地の方がコーディネーターをするシステムは良いと思う。

(Y)

・自分の専門領域以外に訪問でき、多角的に問題を考えることができる内容であった。地方における活動団体との意見交流・体験は、とても有意義であった。

(2) 派遣期間中の日程(プログラム量)について(3が最も良い評価)

	5 過密すぎた	4 少し過密だった	3 適切	2 少し少なかった	1 少なすぎた	平均
英国(高齢者) UK (EP)	0	1	7	0	0	3.13
フィンランド(障害者) Finland (PD)	5	3	0	0	0	4.63
ドイツ(青少年) Germany (Y)	1	6	0	1	0	3.88

(3) 団の研修テーマについて(プログラム内容と団テーマが合致したものであったか)

	5 とても合致していた	4 合致していた	3 ある程度合致していた	2 あまり合致していなかった	1 合致していなかった	平均
英国(高齢者) UK (EP)	0	3	4	1	0	3.25
フィンランド(障害者) Finland (PD)	2	4	2	0	0	4.00
ドイツ(青少年) Germany (Y)	1	5	2	0	0	3.88

(EP)
・医療、介護、福祉(地域連携)の連携を考えた場合、医療分野が少なかった。
・専門職種側からのお話を伺える機会があればもう少し深めることができたかなと感じた。“専門職”の定義を団としてもしっかりと練る必要があったのではないかと反省

(PD)
・団一テーマが明確に設定できたので(各団員の感じる課題と訪問国の動きと全体テーマをうまく組み込めていた)、訪問先での学びにつなげやすかった。

(Y)
・団テーマを設定した時点の情報量が少なかったため、現地では得た新たな知見をもとに団テーマと異なる問題意識も芽生えた。結果的にはそれはとてもよかったと思う。

(4) 訪問国の専門分野事情について、訪問国政府又は関連機関からの説明について

	5 大変有益だった	4 有益だった	3 ある程度有益だった	2 あまり有益ではなかった	1 有益ではなかった	平均
英国(高齢者) UK (EP)	3	5	0	0	0	4.38
フィンランド(障害者) Finland (PD)	4	3	1	0	0	4.38
ドイツ(青少年) Germany (Y)	0	4	2	1	1	3.13

(EP)
・地域包括ケアシステムを探る上で、国の取組は非常に重要なので、それについて様々な省庁からお話を聞くことができたのが良かった。また日本大使館で日本人の視点で、英国の取組に精通している方からのお話は理解が深まった。

(PD)
・最新の事情について知ることができ、行ったかいがあったと思う。
・政府関連機関への訪問は簡単にできることではないので、とても貴重な機会をいただいたと感じる。

(Y)
・時間が限られており、概要部分の説明で終わってしまうことが多かった。事前や事後に資料を読めば理解できる内容よりも、現地でないと得られない情報を得る時間がもっと多いと良かった。

(5) 非営利団体訪問時のプログラム内容について

	5 大変有益だった	4 有益だった	3 ある程度有益だった	2 あまり有益ではなかった	1 有益ではなかった	平均
英国(高齢者) UK (EP)	0	6	2	0	0	3.75
フィンランド(障害者) Finland (PD)	2	4	2	0	0	4.00
ドイツ(青少年) Germany (Y)	4	3	1	0	0	4.38

(EP)
・英国での連携に対して良くできている点、不十分な点が見えてとても良かった。
・規模の大きい団体から小さい団体、また中心地に近い活動エリアの団体から郊外エリアとする団体まで見ることは良かった。
・同様な施設へ複数箇所訪問したため若干不満あり。

(PD)
・障害者の方との交流は、きつい研修の小休止となり、楽しくて心が癒された。ただ、訪問した多くの施設が政府と密な関わりがあるようで、現在の最先端成功事例(特別うまく行っている場所)だった。もっと地方で地域密着型の施設訪問も訪問できたら良かった。

(Y)
・ノルトハウゼンのプログラムは地域の方達とのふれあいも含めて素晴らしかった。
・特徴的な団体への訪問だったため、有益であったし、ベルリンとノルトハウゼンという地理的、状況的な差に触れることができた。ただし、ソーシャルセクターとしては、日本より進んでいるという感じはなかった。

(6) 非営利団体スタッフ及び関係者との情報交換、意見交換について

	5 大変有益だった	4 有益だった	3 ある程度有益だった	2 あまり有益ではなかった	1 有益ではなかった	平均
英国(高齢者) UK (EP)	1	5	2	0	0	3.88
フィンランド(障害者) Finland (PD)	0	4	4	0	0	3.50
ドイツ(青少年) Germany (Y)	4	2	2	0	0	4.25

(EP)

・スタッフ、関係者とコミュニケーションを実際にとることができて、英国の良い点、日本の良い点がよく分かった。

(PD)

・フィンランドでの課題や、現場レベルでの実状がよく分かった。政府が一緒でも、包み隠さず現場支援者の本音部分が聞けた事が有益だった。
・出発前に団員と質問事項について確認しておいたことでスムーズに情報交換・意見交換をすることができた。

(Y)

・説明よりも質疑応答や意見交換の中で資料には表れない実情や思いを聴かせていくことができ、有益だった。懇親会で自分の英語力が低く満足な意見交換ができなかったのは残念だった。

(7) 訪問先における関係者との関係構築について

	5 強い関係を構築できた	4 関係を構築できた	3 ある程度関係を構築できた	2 あまり関係を構築できなかった	1 全く関係を構築できなかった	平均
英国(高齢者) UK (EP)	0	2	5	1	0	3.13
フィンランド(障害者) Finland (PD)	0	1	6	1	0	3.00
ドイツ(青少年) Germany (Y)	1	2	4	0	0	3.57

(EP)

・まずはネットワークを消さず、関係を続け、そこから発展させていきたいと思う。

(PD)

・言葉の部分で少し壁があるが、同じ分野の人とつながることができたので、自身の活動を伝えたり、意見交換を行ってきたい。

(8) 訪問国活動中、あなたにとって最も有益と感じた訪問先とその理由を記入してください。 ※自由記述のため、コメント省略

(9) ホームステイについて

	5 大変有益だった	4 有益だった	3 ある程度有益だった	2 あまり有益ではなかった	1 有益ではなかった	平均
英国(高齢者) UK (EP)	3	4	1	0	0	4.25
フィンランド(障害者) Finland (PD)	5	2	1	0	0	4.50
ドイツ(青少年) Germany (Y)	6	0	1	0	0	4.71

(PD)

・当事者と日中を過ごすことで、リアルにバリアフリーの現状も見ることができた。また、一番のんびり過ごすことができ、自分自身にとってリフレッシュした時間となった。
・夫婦二人暮らしの過程で、どちらも目の不自由な方でしたが、日常生活は助け合いながら自立し、その人らしい生活を営めているのを実体験させていただいた。
・盲導犬・引退盲導犬と遊んだり、ご主人にアコーディオンを演奏して頂いたり、ご夫婦の日常を見せてくださり...もう全てが良かった。

(Y)

・コアリーダープログラムにおいて重要性がわからないのが本音である。それよりは、団員が集まって、1日会議をする時間の重要性を感じる。

(10) 通訳について

	5 大変良かった	4 良かった	3 まあまあ	2 悪かった	1 とても悪かった	平均
英国(高齢者) UK (EP)	7	1	0	0	0	4.88
フィンランド(障害者) Finland (PD)	7	1	0	0	0	4.88
ドイツ(青少年) Germany (Y)	7	1	0	0	0	4.88

(11) 派遣団の構成について(同分野でも幅広いバックグラウンドの人と知り合い、団として共同作業をしてきたことは、どのような価値がありましたか)

- (EP)
- ・他職種の目線や考え方を知ること、自分の考え方に幅が広がり、今後ネットワークを構築してつながっていくことができる仲間を得られた点が一番有益だった。
- (PD)
- ・たくさんの視野で見ることができ、幅広い職種だからこそ、知識が広くあったので、自分が知らないことは誰かが知っていたりとお互いに刺激合っ
 - て、進めることができた。また、自身の活動についても知らせることができた。(認知度の低さも再認識した。)
 - ・自分の考えを見つめ直す機会になったと共に、各領域で頑張られている人との交流でモチベーションを上げることができた。
- (Y)
- ・異なる価値観を持つ方達との議論を通して新しい視点を得ました。
 - ・職種やパーソナリティが多様だったため、難しい部分もあったが、視点が違ったことで、学びが深まったと感じる。

4. 帰国後研修の内容について

	5 大変良かった	4 良かった	3 まあまあ	2 あまり良くなかった	1 悪かった	平均
英国(高齢者) UK (EP)	0	7	1	0	0	3.88
フィンランド(障害者) Finland (PD)	1	6	1	0	0	4.00
ドイツ(青少年) Germany (Y)	0	4	3	0	0	3.57

- 【良かった点】
- ・帰国後間もないうちに、報告会に向けての話し合いをできた事で自分の頭の中が整理できた。
 - ・エンディングの時間をもてたことで理解や関係性が深まった。
- 【悪かった点】
- ・早めに振り返ることの意義は分かるが、疲れや頭が煮詰まっている中でなので、効率が悪いように感じた。(Y)
- 【不足していた点】
- ・報告内容は現地の様子を知らない人に対しても適切に伝えるという点では力不足な部分があったと感じる。内容としては、振り返り・共有を目的としてきちんとプログラムを組むことができたより学びを定着させることができたと感じる。(Y)

5. 派遣プログラム全体について

(1) あなたは、なぜこの事業に参加したのですか。(複数回答可)

	英国 (高齢者) UK (EP)	フィンランド(障害者) Finland (PD)	ドイツ (青少年) Germany (Y)
① 海外におけるNPO運営の現状を学ぶため	4	5	3
② 海外における各分野の現状を学ぶため	8	7	5
③ NPO運営の課題解決のヒントを得るため	3	2	5
④ 各分野の課題解決のヒントを得るため	6	6	5
⑤ 国際交流事業に興味を抱いたため	3	5	3
⑥ 自己啓発のため	5	7	3
⑦ 仕事上のキャリアを積む、もしくは地位を築くため	4	1	0
⑧ その他	0	0	1

(2) あなたの個人テーマは達成できましたか。

	5 目標を超えて達成できた	4 達成できた	3 ある程度達成できた	2 あまり達成できなかった	1 達成できなかった	平均
英国(高齢者) UK (EP)	0	4	4	0	0	3.50
フィンランド(障害者) Finland (PD)	0	2	6	0	0	3.25
ドイツ(青少年) Germany (Y)	2	1	5	0	0	3.63

(EP)

・得たものに対しては達成できたが、どう実践していくかは自分次第であると思う。

(PD)

・国際交流や、障がい者への取り組みなど。まだ、きっかけに過ぎないのでこれから個人テーマが達成出来るように頑張ります。

(3) あなたが地域の課題としていたことは何でしたか。その解決に向けた情報は得られましたか。

	5 十分に情報を得られた	4 情報を得られた	3 ある程度情報を得られた	2 あまり情報を得られなかった	1 情報をえられなかった	平均
英国(高齢者) UK (EP)	0	5	3	0	0	3.63
フィンランド(障害者) Finland (PD)	0	3	5	0	0	3.38
ドイツ(青少年) Germany (Y)	0	6	2	0	0	3.75

(EP)

地域の課題:地域の連携、他職種連携が不十分なので、もっとリーダーシップを発揮して一般の高齢者に関わってきたい。

コメント:ボランティアをもっと発掘して、今の介護現場で話していきたい。日本にある良い文化をもっといかして非営利団体が地域にもっと介入してリーダーシップを発揮していければ良いと思う。

地域の課題:若い世代と地域をどうつないでいくのが良いか。地域における自助・互助の強化の方法。

コメント:英国のチャリティ文化、ボランティアが高齢者を取り巻く環境を良いものになっているのと感じた。若者も率先してボランティア活動に参加することで、高齢者と関わるきっかけを得ている。

(PD)

地域の課題:余暇活動を通じて、障害者の社会参画を進める

コメント:社会参画という考え方(企画から参加)を改めて知り、自団体、地域での活動の在り方そのものについて、考え、得ることができた。

地域の課題:ネットワーク構築と、地域の若手職員が積極的に障害啓発イベントの実行委員として取り組んでいくこと。地域福祉の人材育成。

コメント:多くの当事者団体で「若手の人材育成」に力を入れているという話や、地域啓発イベントにソーシャルネットワークを利用しているという話をうかがい国や地域にかかわらず普遍的な課題であり、自身の成長も含め、今後も取り組んでいく必要があると実感できました。

(Y)

地域の課題:各セクター(行政・非営利団体・地域等)が連携して地域の課題解決に向かうこと。

コメント:非営利セクターから、積極的に行政に向けてプロジェクトを提案するドイツのNPOの現状を知ることができました。連携するには、受け身で待つのではなく、積極的なアプローチが必要であることを学びました。

(4) この派遣プログラムで、非営利団体の運営／ご自身の活動分野に関して、どの程度学べましたか。 ※自由記述のためコメント省略

(5) ご自身の活動分野に関してどの程度情報交換できましたか。 ※自由記述のためコメント省略

(6) この事業全体を通じて得られた自らの成長などへの効果について

		6 十分効果が あった	5 効果があった	4 ある程度効果 があった	3 あまり効果がな かった	2 効果がなかつ た	1 全く効果が なかった	平均
① 訪問国の基礎知識・理解	英国(高齢者)	0	8	0	0	0	0	5.00
	フィンランド(障害者)	1	5	2	0	0	0	4.88
	ドイツ(青少年)	1	4	3	0	0	0	4.75
② コミュニケーション力	英国(高齢者)	2	1	5	0	0	0	4.63
	フィンランド(障害者)	0	3	4	1	0	0	4.25
	ドイツ(青少年)	2	3	2	1	0	0	4.75
③ リーダーシップ	英国(高齢者)	0	1	4	3	0	0	3.75
	フィンランド(障害者)	0	1	5	2	0	0	3.88
	ドイツ(青少年)	0	3	2	3	0	0	4.00
④ 異文化への対応力	英国(高齢者)	2	1	4	1	0	0	4.50
	フィンランド(障害者)	0	4	4	0	0	0	4.50
	ドイツ(青少年)	1	5	2	0	0	0	4.88
⑤ 主体性・積極性・チャレンジ精神	英国(高齢者)	1	5	2	0	0	0	4.88
	フィンランド(障害者)	0	2	5	1	0	0	4.13
	ドイツ(青少年)	1	4	3	0	0	0	4.75
⑥ 集団生活への適応力(協調性・柔軟性など)	英国(高齢者)	0	5	3	0	0	0	4.63
	フィンランド(障害者)	1	4	3	0	0	0	4.75
	ドイツ(青少年)	2	3	3	0	0	0	4.88
⑦ 日本人としてのアイデンティティ/誇り	英国(高齢者)	2	4	2	0	0	0	5.00
	フィンランド(障害者)	1	3	4	0	0	0	4.63
	ドイツ(青少年)	1	2	2	2	1	0	4.00
⑧ 責任感・使命感	英国(高齢者)	0	7	1	0	0	0	4.88
	フィンランド(障害者)	1	4	3	0	0	0	4.75
	ドイツ(青少年)	1	2	4	1	0	0	4.38
⑨ 自己管理能力	英国(高齢者)	0	4	3	1	0	0	4.38
	フィンランド(障害者)	0	3	5	0	0	0	4.38
	ドイツ(青少年)	0	5	2	1	0	0	4.50
⑩ ディスカッション力	英国(高齢者)	1	2	4	1	0	0	4.38
	フィンランド(障害者)	0	3	5	0	0	0	4.38
	ドイツ(青少年)	2	3	3	0	0	0	4.88

(7) 出発までの自主研修に目標を定めて充分に取り組みましたか。

	5 充分に取り組み めた	4 取り組みた	3 ある程度取り 組めた	2 あまり取り組め なかった	1 取り組みな かった	平均
英国(高齢者) UK (EP)	0	6	0	2	0	3.50
フィンランド(障害者) Finland (PD)	0	1	5	2	0	2.88
ドイツ(青少年) Germany (Y)	0	5	2	0	1	3.38

【自己研修期間中に、もっと準備しておけばよかったこと、取り組んでおけばよかったこと、学んでおけばよかったと思うこと】

- ・相手国(訪問国)のことを自己学習することも大切だが、まずは、自分の国の制度や取組の状況、(自分の地域だけでなく、日本全体に説いて(等、自己学習し、ある程度把握しておくべきだと思った。(EP)
- ・日本の制度や取組について、訪問先と合わせて学ぶべきだった。もっと事前に日本でもいろんな団体を訪問したりするべきだった。(PD)
- ・語学力(EP,PD,Y)
- ・当該国と、日本の違いについて、比較資料の提供(Y)

(8) この派遣プログラムを通じてあなたは相手国の人々とのそれぞれの分野及び非営利分野における相互理解を深められたと思いますか。

	5 充分に深めら れたと思う	4 深められたと 思う	3 ある程度深め られたと思う	2 あまり深められ たと思わない	1 深められたと 思わない	平均
英国(高齢者) UK (EP)	0	3	5	0	0	3.38
フィンランド(障害者) Finland (PD)	0	4	4	0	0	3.50
ドイツ(青少年) Germany (Y)	4	2	1	1	0	4.13

(9) この派遣プログラムを通じて、あなたは相手国との友好を深められたと思いますか。

	5 充分に深めら れたと思う	4 深められたと 思う	3 ある程度深め られたと思う	2 あまり深められ たと思わない	1 深められたと 思わない	平均
英国(高齢者) UK (EP)	1	4	3	0	0	3.75
フィンランド(障害者) Finland (PD)	1	7	0	0	0	4.13
ドイツ(青少年) Germany (Y)	3	5	0	0	0	4.38

(10) 研修などを通じて、他分野の参加青年とも今後のネットワークにつながる交流を行うことができましたか。

	5 充分にできた	4 できた	3 ある程度でき た	2 あまりできな かった	1 できなかった	平均
英国(高齢者) UK (EP)	2	1	5	0	0	3.63
フィンランド(障害者) Finland (PD)	0	3	5	0	0	3.38
ドイツ(青少年) Germany (Y)	0	2	2	3	1	2.63

- (EP)
- ・この事業に障害、青少年があることでとても視野を広めることができた。
 - ・他分野・領域への十分な理解がないままディスカッションに入る傾向があり、表面的なやり取りになってしまっている感が否めなかった。

(11) 研修などを通じて、他分野の参加青年とも情報交換し、社会活動のマネジメントなどについて学ぶことができましたか。

	5 充分にできた	4 できた	3 ある程度でき た	2 あまりできな かった	1 できなかった	平均
英国(高齢者) UK (EP)	0	0	5	3	0	2.63
フィンランド(障害者) Finland (PD)	0	1	4	3	0	2.75
ドイツ(青少年) Germany (Y)	0	2	1	3	2	2.38

- (PD)
- ・社会活動のマネジメントという視点での情報交換はあまりできなかった。今後の自分の課題だと思う。
- (Y)
- ・情報交換は多少図ることができたが、現場重視の視点が強く、社会活動のマネジメントについて俯瞰的な視点での情報交換をあまり図ることができなかった。

(12) この派遣プログラムは、あなたの将来に役立つと思いますか。

	5 とても役立つと思う	4 役立つと思う	3 ある程度役立つと思う	2 あまり役立つと思わない	1 役立つと思わない	平均
英国(高齢者) UK (EP)	3	5	0	0	0	4.38
フィンランド(障害者) Finland (PD)	7	1	0	0	0	4.88
ドイツ(青少年) Germany (Y)	6	1	1	0	0	4.63

(EP)

- ・英国からの学びを経て、日本の良さにも気付くことができた。その点を構築したネットワークを通じて、情報発信していきたいという展望が得られた。
- ・団のテーマ、個のテーマの達成に向け、団のメンバーが協力、自分の考えを意見交換し合うことは自分にとってプラスになると思う。

(PD)

- ・自分の専門分野以外の知識が得られた事で、支援の幅が広がった。

(Y)

- ・ドイツでの訪問先で得られた情報や体験は、研究者として同じ期間で現地調査を行う場合と比べた場合、5回分くらいの密度と価値があったと思います。
- ・役立つかに関しては、まだ不明確である。少なくともこの場だけでは難しい、このあとどのようにしていくかが求められていると思う。

(13-1) 派遣プログラムに参加することで、地域における社会活動の中心的担い手として活躍していくことに対し、意欲が増しましたか。

	5 とても増した	4 増した	3 ある程度増した	2 あまり増していない	1 増していない	平均
英国(高齢者) UK (EP)	1	7	0	0	0	4.13
フィンランド(障害者) Finland (PD)	2	4	2	0	0	4.00
ドイツ(青少年) Germany (Y)	2	4	2	0	0	4.00

(13-2) 派遣プログラムに参加することで、地域における社会活動の中心的担い手として活躍する上で有用な能力を高めることができたと思いますか。

	5 とても高められたと思う	4 高められたと思う	3 ある程度高められたと思う	2 あまり高められなかったと思わない	1 高められなかったと思わない	平均
英国(高齢者) UK (EP)	1	5	2	0	0	3.88
フィンランド(障害者) Finland (PD)	0	5	3	0	0	3.63
ドイツ(青少年) Germany (Y)	1	4	3	0	0	3.75

(EP)

- ・地域の中で連携の大切さを説明することができるようになった。地域の中でボランティアをすることで、さらにボランティアに取り組む人を多くしていきたい。
- ・意欲は増したが、プログラムを通じて能力が高まったとはあまり感じていない。

(PD)

- ・ともに派遣された団長・団員には「チームで活動すること」「自分を生かすこと」「困ったときに頼りにすること」「リーダーシップ」など多くのことを学びました。
- ・まだまだ能力を高められたとは言えないが、様々な人と出会えたこと、自分の身の周りのミクロの視点だけでなく、国の政策というマクロの視点についても知ることができ、それについて語り合うことができたことが今後につながると思うから。

(Y)

- ・知識として知っていたことが体験として裏付けられたことで自らの活動のなかでも確信をもって、伝達普及及び改善に努められると思います。
- ・団内のネットワークは今後の貴重な活動リソースになることは間違いないです。

(14) 今後、他分野の参加青年ともコミュニケーションを続け、連携することができると思いますか。

	5 充分にでき と思う	4 できると 思う	3 ある程度 できると 思う	2 あまりでき ると思わ ない	1 できると 思わな い	平均
英国(高齢者) UK (EP)	0	3	4	1	0	3.25
フィンランド(障害者) Finland (PD)	0	1	7	0	0	3.13
ドイツ(青少年) Germany (Y)	1	1	5	0	1	3.13

(EP)

・地域包括ケアにおいて、障害、青少年分野と連携が必要なため、つながっていく努力をしていきたいと思う。

・そもそもこの3分野は地続きの分野だと思うので、他分野に関しても、当方が学習することができると思われる。

(PD)

・多分野の人とは、同じ分野ほど交流ができなかったため、今後どうつながっていくかについては、少し難しさがあると感じている。

(Y)

・コアリーダー(マネジメント)としてのスキルが大幅に違いすぎる。目の前しかみていない存在と連携できる可能性はほぼない。

(15) 今後、この派遣プログラムの経験をどのようにいかしていきたいですか。 ※自由記述のためコメント省略

(16) この派遣プログラムへの参加を、周りの関係者に勧めたいと思いますか。

	5 とても勧め たいと思 う	4 勧めたい と思 う	3 ある程度 勧め たいと思 う	2 あまり勧め たいと思 わない	1 勧めたい と思 わない	平均
英国(高齢者) UK (EP)	5	2	1	0	0	4.50
フィンランド(障害者) Finland (PD)	5	2	1	0	0	4.50
ドイツ(青少年) Germany (Y)	4	2	1	1	0	4.13

(15) 団員の募集についての意見・提言 ※自由記述のためコメント省略

(16) その他、この派遣プログラムを通じての意見・提言 ※自由記述のためコメント省略

平成28年度地域課題対応人材育成事業「地域コアリーダープログラム」 NPOマネジメントフォーラム2017参加者アンケート結果

<回答率>

外国参加青年：37名中37名(100%)

日本参加者：27名中27名(100%)

<調査時期>

平成29年2月28日

F: 外国参加青年 / Foreign participants

J: 日本参加者 / Japanese participants

略号 T1: トピック1 / Topic 1

T2: トピック2 / Topic 2

T3: トピック3 / Topic 3

NPOマネジメントフォーラムへの参加で、どのようなことが得られましたか。(複数回答可)

	F	J
a. 非営利団体の事業展開についての情報共有	31	9
b. 非営利団体の組織的強化・充実の方法についての情報共有	16	16
c. 各国の非営利団体の状況に関する情報を理解	30	12
d. 各国の高齢者・障害者・青少年分野の状況について	24	16
e. 参加者間のネットワーク作り	33	22
f. トピックに掲げたテーマの具体的な内容	19	16
g. その他(具体的にお書きください)	0	1

NPOマネジメントフォーラムに参加することで、外国参加青年(外国参加青年の場合は日本参加者)とのネットワークを構築できるようなコミュニケーションをとることができたと考えますか。

	5 とてもそう思う	4 そう思う	3 どちらでもない	2 そう思わない	1 全くそう思わない	無回答	平均
F	9	24	4	0	0	0	4.13
J	2	13	11	1	0	0	3.59

英語で会話ができるアドバンテージのおかげだと思います。もう少し英語が苦手な人たちとの架け橋になれば良かったかなと思います。(J/T2)

一部の日本人参加者とは非常に良い議論を交わすことができたが、彼らのほとんどは英語が理解できる人たちだった。残念ではあるが、大半の日本人参加者には私の質問は通じていなかったのではないかと思う。(F/T2)

ある程度のレベルには達していたと思う。しかしながら、日本人参加者のネットワークはより高齢者分野、障害者分野、青少年分野に特化したものであるべきだと考える。事前に日本人参加者の背景(所属団体情報、彼らの専門性や経験などについて)を知らせてほしかった。(F/T2)

大変内容の濃いディスカッションができた。文化的な違いではあるが、日本人参加者は自分の意見をあまり表現しないと感じた。(F/T3)

日本参加者があなたと交流して得たものは何だと思いますか。(外国参加青年のみ)

異文化交流だった。NPOの日常の仕事について新しいアプローチを学んだ。社会にNPOが貢献する方法について新しい視点を持つことができた。自信。世界に広がる強固なネットワークの構築。(F/T1)

他の国でも同じような課題に直面していることを知ることができた。一人で解決するのではなく、経験を共有し、国を超えてより良い地域社会を作ることができるのではないかと考えた。ヨーロッパにおけるNPO事情。(F/T1)

ヨーロッパでの評価のアプローチについて。異なる文化からみた視点。建設的な議論。(F/T3)

NPOマネジメントフォーラム全体に関して

情報をもっと公開してはどうでしょうか？レポートとか。何が学べて、何を得られるのかが「メリット」なのかもしれませんが...。そこをもっと知ることができれば、参加者の獲得につながるのでは。期待した以上にたくさんのものを持って帰れそうです。それを事前に知ることができていたら、もっと良かったと思います。若者だったり国際交流だったりコアリーダーだったりNPOマネジメントだったり参加してみるとその全てなのですが、ひっかかることが多すぎて伝わらない気がしました。(J/T1)

事前説明が不足していたと思う。全ての外国人参加青年は2週間、自分の仕事やプライベートを空けて参加しているはずなので、それをもっと尊重してほしい。プログラムはもっと明確なゴールや成果に向かって進行されるべきだったと思う。このフォーラムは専門家のためのプログラムなのか、若者の交流プログラムなのか、はっきりしてほしい。私は、2週間という貴重な時間を使って参加しているので、専門性を求められて招待されていると理解していた。しかしながら、そのような扱いではなかったし、私の専門性を生かす場面はほとんどなかった。このプログラムに参加している人はとてもすばらしかった。ここで得たネットワークや繋がりには深く感謝している。内閣府としてこのフォーラムをどのような位置づけで捉えているのかわからないが、表面的な議論で終わらない実際の国際社会における課題を解決するような会議として機能するはずのフォーラムだと理解しているので、そのように運営して評価されるべきである。(F/T2)

平成28年度地域課題対応人材育成事業「地域コアリーダープログラム」
地方セミナー参加者アンケート結果

<回答率>

高齢者関連活動／Activities for Elderly People Course (EP):

外国参加青年／Foreign participants: 13名中13名(100%)

日本参加者／Japanese participants: 20名中8名(40%)

障害者関連活動／Activities for Persons with Disabilities Course (PD):

外国参加青年: 13名中13名(100%)

日本参加者: 35名中30名(86%)

青少年関連活動／Activities for Youth Course (Y):

外国参加青年: 11名中11名(100%)

日本参加者: 28名中13名(46%)

<調査時期>

平成29年2月26日

略号

F: 外国参加青年／Foreign participants J: 日本参加者／Japanese participants

Fin: フィンランド/Finland G: ドイツ/Germany UK: 英国/United Kingdom

セミナーの全体評価

	5 大変良かった	4 良かった	3 普通	2 あまり良くな かった	1 まったく良くな かった	無回答	平均
高齢者(鳥取県) 外	1	9	1	0	0	0	4.00
高齢者(鳥取県) 日	2	6	0	0	0	0	4.25
障害者(大分県) 外	3	8	1	0	0	0	4.17
障害者(大分県) 日	15	13	2	0	0	0	4.43
青少年(鹿児島県) 外	2	8	0	0	0	0	4.20
青少年(鹿児島県) 日	6	5	1	0	1	0	4.15

*国毎のプレゼンが予定時間を超えていた。(EP/F)

*日本人の福祉関係者(介護士やスタッフ)、NPOや色々な施設の役員メンバーと話し合うのは面白かった。(PD/F)

*自分たちのプレゼンを準備する時間が少なかったのも、もっと時間があればありがたかった。(PD/F)

*地方セミナーの時間が、1日ではなく1.5日くらいあってもいい。(Y/F)

*プレゼンは少なくして、もっとディスカッションの時間が欲しかった。(Y/F)

テーマの設定はあなたにとって興味、関心になったものでしたか。

	5 十分に沿って いた	4 沿っていた	3 普通	2 あまり沿って いなかった	1 まったく沿っ ていなかった	無回答	平均
高齢者(鳥取県) 外	5	4	2	0	0	0	4.27
高齢者(鳥取県) 日	3	5	0	0	0	0	4.38
障害者(大分県) 外	2	7	2	0	0	0	4.00
障害者(大分県) 日	13	13	4	0	0	0	4.30
青少年(鹿児島県) 外	5	4	1	1	0	0	4.18
青少年(鹿児島県) 日	3	7	0	2	0	0	3.92

*他の国で実践された経験や活動を聞いて、自分が高齢者と活動する時に活かせるのがいい。自分の仕事における具体的なヒントを得られたし、他の国の様子もよく分かった。(EP/F)

*アルバイトの人に焦点を当てたのは面白かったが、時間が短くてディスカッションを深められなかった。(EP/F)

*具体的な事例についてのプレゼンなので、分かりやすかった。(EP/J)

*意識向上のための色々な考えを聞いたり、プロジェクトに向けての新しいアイデアを得られたのでよかった。(PD/F)

*世界各国の様子を知る機会は滅多にない中で、本日のセミナーはとても有意義であった。(PD/J)

*日本以外の福祉を学ぶ初めての機会、各国の取り組みに関心を持つことができた。(PD/J)

*トピックが明確ではないと感じることがあった。青少年のリーダーシップという定義はとてつもなく大きすぎる。短い時間でのテーマであるならば、もっとトピックを絞って話し合えたらよかった。(Y/F)

*地域づくりにとって若者の参加は今後ますます重要であるので、他国の取り組みは大変参考にあるものであった。(Y/J)

セミナーは期待に沿う内容でしたか。

	5 かなり良かった Fully satisfied	4 期待以上 Good	3 普通 Satisfactory	2 期待以下 Fair	1 良くなかった Not satisfied	無回答 N/A	平均 Average
高齢者(鳥取県) 外	2	8	1	0	0	0	4.09
高齢者(鳥取県) 日	1	5	2	0	0	0	3.88
障害者(大分県) 外	4	7	1	0	0	0	4.25
障害者(大分県) 日	9	16	4	0	0	1	4.17
青少年(鹿児島県) 外	2	8	0	1	0	0	4.00
青少年(鹿児島県) 日	3	6	1	1	1	0	3.75

*ボランティアの必要性や、各国の取り組みやしきみが知れた。ドイツの取り組みには興味がある。(EP/J)

*面白かった。ディスカッショントピックは興味深く、よく考えて選ばれていた。(PD/F)

*フィンランドでは福祉に関する費用は無料だったり、ドイツでの学校支援アシスタントは無料であるなど、親への負担が少ないことなど、知らないことをたくさん知ることができ、大変良かった。(PD/J)

*各国のすばらしい取り組みが聞けたこと、また今後の子どもとの関わる上でとても参考になったので、期待に沿うものであった。(PD/J)

*日本の団体に対して、アドバイスやガイダンスを与えるような、もっと高度な機会があるものと期待していた。国対地方行政についての理解は深めだが、NPOについては得たものはあまりない。(Y/F)

*日本の若者から考えを聞くことができたが、もっと多くの声を聞けたらよかった。(Y/F)

このセミナーから得たもの、学んだもの、今後いかしていきたいことは何ですか。

*高齢者の可能性→日本では高齢者は重荷というよりは、コミュニティーを支える人材として尊敬されている。相互支援→地元コミュニティは孤立した高齢者がいないかを継続的にチェックし、地域での活動に巻き込む新しい方法を見出し出している。(EP/F)

*どこの国にも、高齢者がコミュニティーの中で支援を受けながら、そこにいる人たちと共に助けあい協力して生きていく、とてもいい事例がある。これらの事例を自分の国に持って帰り、自分のいるコミュニティーの高齢者やそこに関わる人たちのつながりを強めていく。(EP/F)

*これから自分たちが進んでいく社会に何が必要か、そして自分がどう生きていくかが大切で、社会資源等しっかり理解する必要がある。また現在の高齢者にも、2025年のピークが来る前に土台作りをしていく必要がある。地域(自分の事務所)住民の方々は、以外にも介護保険、色々なサービスがあることを知らない人が多い。私たちにできることは、元気に一生を過ごすための知識や分かりやすい講習などしていくことも必要だと思われる。(EP/J)

*4つの国の意識啓発について、類似点と相違点に関しての知識を得た。多くの事例が共有されたおかげで、どのように意識啓発をしていくか、またその時に何を考慮すべきかについて、新しいアイデアを得ることができた。(PD/F)

*4つの国それぞれのシステムから、類似点や相違点、日本の課題、障がいのある子を持つ親がどんな心配ごとを抱えているかが見えた。→ヨーロッパの国々でも同じ。発達障害、知的障害の人たちに対する考え方が日本で変わってきている。→障がい者の自己決定や独立を支援していく、より良い方法。障がい者もNPOのメンバーとなって活動し、さらには役員やグループのリーダーになるチャンスを与える。(PD/F)

*発達障害の親として悩むことも多いのですが、親として何ができるか支援していただいている方にどうお願いしていくか(共に歩んでいくか)、また社会にどう発信(啓発)していくか働きかけていくか考えていきたいと思います。今現状にないからダメだと思うのではなく、各国のすばらしい取り組みを取り入れられないか、考えていきたいです。(声を上げていきたいです)。(PD/J)

*この様な試みが分県で行われていることを知り、勇気付けられた。今後自身で抱く問題等に積極的に取り組んでいきたいと思う。(PD/J)

*事例の共有、広い見方、ネットワーク、人々とのつながりや結束。このネットワークを今後のプログラムに有効活用していきたい。(Y/F)

*若者と青少年活動の状況について、さらに学ぶことができた。青少年の権利、ニーズ、願望についてを語る時、常に若者を第一に置くことが重要である。(Y/F)